



いまは今
vol.138

発行 今井町町並み保存会
発行日 平成23年12月1日
電話 0744-22-1128
http://www.3kcn.ne.jp/~imaicho/
e-mail imaicho@m3.kcn.ne.jp

◇ご意見・ご感想は
今まちづくりセンターまで

第34回全国町並みゼミ

飛騨市大会参加報告(2)

前回に引き続き、第34回全国町並みゼミ飛騨市大会について掲載します。今号ではまず大会参加者の大村副会長と福井常任理事による分科会の報告を掲載した後、3日目に行われた全体会および閉会式の様子をお届けします。

岐阜県北端の四方を山に囲まれた神岡町での第2分科会に参加しました。最盛期には三万人を数えた町民も、鉱山の採掘中止に伴い減少し、現在は一万人程の規模の町になっています。過去に何度かの大火に見舞われたため、町並みを形成する建造物も点在して残っている程度で、分科会ではその利活用と保存について話し合われました。限られた歴史遺産や建造物などのガイド内容を充実させるため、町民自身が、より深い知識で来町者をもてなすための勉強会の実施や、廃線で撤去寸前だった神岡鉄道を利用したレールマウンテ

ンバイクなど、産業遺産を活用した観光など、町再興のための活動が報告されました。安易な判断での改造・撤去は簡単ですが、町の宝を失うことになりかねません。町並みも建造物も面として残存する恵まれた環境の今井町ですが、我々町民も自分の町についての知識をより深め、大事に保存していく努力がまだまだ必要であることを実感しました。

(大村眞司)

第5分科会は「市民参加の元気なまちづくりで交流人口の増加」をテーマに飛騨市河合町で開催された。午後から図書館にて開催されたパネルディスカッションでは、コーディネーターの苅谷氏の主導により活発な議論がおこなわれた。特に印象に残ったのは藻谷浩介氏(日本政策投資銀行)の「保存活動をずる人間が自分の視点を押しつけるだけではなく、訪問者の視点を大事にしなければならぬ」という発言であった。我々も自らの活動

理念を最重要課題としつつも、他者の目を意識するという基本を忘れてはいけないのだと考えさせられた。

(福井敏)

最終日には全体会があり、分科会報告がおこなわれた後、台湾での町づくりの第一人者である丘如華氏が「アジアの町並み」というタイトルで台湾における町並み保存活動の実例を話されました。

最後にゼミの統括と大会宣言が全会一致で採択され、次回開催地である福岡県博多市の「博多津にぎわい復興計画研究会」副会長の徳永哲氏に大会旗が引き継がれて幕を閉じました。

大会終了後、保存会の四名は古川の町を歩きました。特に目を引いたのが町の境を形成する瀬戸川ですが、この川(堀)は近年になって住民の力により復活したものだそう、悠然と泳ぐ鯉の姿にいしえの飛騨の姿を見た思いがしました。

三重濠の外側発見!

春日神社西側で進められていた発掘作業で、16世紀中頃から後半に掘られた環濠の一番外側に当たる濠の一部が確認されました。

信長に攻められた際の防御用と見られ、今後さらに発掘することでさらに全容が明らかになると思われます。保存会も世界遺産を目指す上で重要な遺構と考え、橿原市に積極的に保存を訴えていきます。



飛騨市河合町にある宿泊施設「やまびこ館」。隣のコテージ「アスク山王」とともに第三セクターにより運営されています。

秋の夜長のウィークエンドコンサート

10月28日に旧米谷家で開催したクラシックコンサートはフィクスタスターズの皆さんによるモーツァルトの「フィガロの結婚」序曲に始まり、一時間半ゆっくりと楽しんでいただけました。今回の感想を西丸智津子さんに歌に詠んでいただきました。

バイオリン フルートの音色わが町の

館つつめり幽玄の秋

ピンと張る空気揺らしてマリンバの

抑揚熱くこころに沁みる

秋の夜の演奏会に癒されて

座敷に正座す善男善女

せかせかとクラス日々なり一服の

清涼剤ともコンサートの彩

晩秋の今井の夜のコンサート、

ピアノソナタの三和土に響く

秋の夜のコンサートを今年も聴かせて頂き、至福の時を過ごすことができました。また、「こころやさしく包んでくれました。器楽のハーモニーに癒され充実した一夜を過ごすことができました。演奏者の皆様には感謝しています。」

奈良まほろばソムリエ検定

体験学習プログラム

昨年に引き続き、10月23日(日)に体験学習プログラムを「大和今井を見る食べる会」として開催したところ26名の参加がありました。そこで参加者の一人、立松先生に当日の感想をお伺いしました。

奈良まほろばソムリエ検定

体験学習プログラムに参加して

奈良教育大学 立松麻衣子准教授

奈良で生まれ育ち、学んだ私は、7年間、奈良を離れて福岡で勤めました。奈良を離れなければこんなに奈良が愛おしくなかったと思います。その愛おしさが私と今井町をめぐり合わせました。

「ここはすごい。ここには何かがある」

ビリビリと感じました。今井町には、まちづくりとかそんな軽いものではない「魂」を感じました。そして、まちを愛して止まない平成23年を生きる今井町の方々の本気。さらに、保存会の方の本気のガイド。

保存会会長・若林様から、今井町は一度来た人は二度目からは帰ってくる町だとお聞きしました。しかし、みなさんの本気が清すぎて、次に何う時には、まだ、「ただいま」とは言えません。「また、今井の魂を感じさせていだだいてもよろしいでしょうか」

11月の今井町視察

3日に学習院大学の先生方、6日に喜連環濠地区まちづくり研究会、そして20日に小浜西組町並み協議会の皆さんの町案内をしました。喜連の皆さんからは今井の環濠の復元に水は不可欠であるとの指摘や中世当時の環濠の断面図を作成してもおもしろいのではないかという意見もいただきました。



小浜の皆さんとは町歩きの後、華鬘で意見交換会を開催し、お互いの町の保存の現状について話し合いました。

いまい往来

12月28日(水) 30(金)

年末警戒・夜回り

12月31日(土) 大祓式・除夜祭り

編集後記

「秋の夜長のウィークエンドコンサート」でいただいたチャリティ募金の金額一万百九十二円は奈良県台風12号災害見舞金として県に送金させていただきました。ご協力ありがとうございました。